OBOG会の登山サークルは 8 月、百名山の中でも人気の山、立山に登ってきました。

活 動 日：平成 30 年 8 月 21 日（火）・22 日（水）
活動場所：立山（室堂平・雄山・称名滝）
参加者名：児玉京子、澤村泰子、村岡友子、平野美千代（特別参加）、井上義之、井上哲也、高鍋學、
高木信一、吉野郁二　（計 9 名）

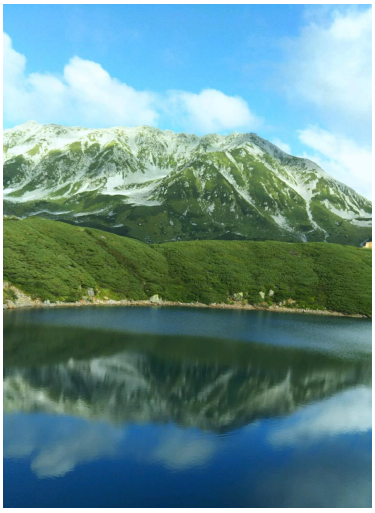
立山は日本に 21 座ある 3,000m級の山の１つです。

その歴史は古く、奈良時代から信仰の対象として登られてきました。弥陀ヶ原、称名滝、地獄谷、血の池、賽の河原、大日岳などといった周辺の地名にも信仰の名残を見ることができます。

また立山頂上には雄山神社があり、直下の室堂平には雄山参拝に使われた玉殿の岩屋や江戸期に作られた室堂小屋が残るなど、日本人と山とのつながりを感じさせてくれる場所でもあります。

１９７１年には立山黒部アルペンルートが開通したことで標高 2,450mの室堂平までならバスで簡単に行けるようになり、信仰から観光へと登山の目的も大きく変わってきました。

皆さんの中にも高い雪壁の廊下「雪の大谷」を歩いたり、トロリーバスやロープウェイを乗り継いで大観峰や黒部ダムまで行かれた方もおられるのではないでしょうか。


みくりが池に映る立山

１日目、立山へ

朝 6:30 大阪駅発の特急サンダーバードと北陸新幹線を乗り継いで富山駅へ。ここから富山地方鉄道に乗り換えて登山口となる立山駅へゆき、ケーブルカーと立山高原バスを使って 12:30 に目的地の室堂センターに到着しました。大阪から6時間。北陸新幹線が大阪まで通じればもっと速く行けるのですが・・・・。

富山地方鉄道

登山口の立山駅

ここからケーブルカー

高原バスからの風景 （左から大日岳、剣岳、室堂センター）

室堂センター到着後、まず今夜の宿泊所「みくりが池温泉」に向かいました。

センターや山小屋がある室堂平や高原バスが走る弥陀ヶ原は 10 万年前の火山活動で作られた溶岩台地だそうです。室堂平に温泉が湧き、火山性ガスが吹き出る地獄谷があるのもそのためです。

地獄谷・今もガスを噴き出している

みくりが池の端に建つ「みくりが池温泉」

室堂山展望台へ

小屋に荷物を預けて室堂山展望台（標高 2675m）へ向かいました。標高差 225mの登りですが、朝が早くて寝不足だったのか、酸素が平地の7割と薄いためか、あるいは今年の猛暑で運動不足だったのでしょうか、「思った以上にきつかった。」との声も聴かれました。

展望台に到着した頃には雲が湧いて眺望はいまひとつでしたが、しばらくすると雲が切れて「あれは薬師岳。これは野口五郎岳では？槍ヶ岳も見えるよ。」など、しばし遠くの山々を楽しむことができました。

室堂山展望台からの眺望

展望台にて（海外からの登山者と）

そのうちに雲が濃くなったため下山しましたが、それでも山の空気は素晴らしく、高山に棲むイワヒバリや、たくさんの高山植物にも巡り合うことができました。

イワヒバリ

チングルマ

ヨツバシオガマ

ウサギギク

ミヤマリンドウ

雪渓で遊ぶ

雪渓

帰路・室堂平を望む

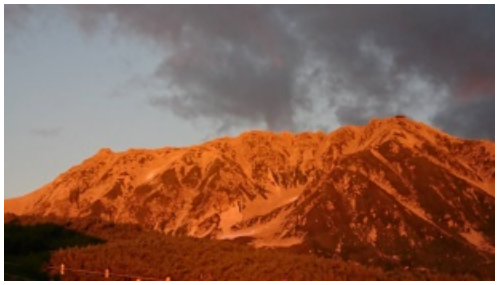
みくりが池温泉

今宵の宿「みくりが池温泉」には天然温泉があり、山小屋としては食事も良く個室があって落ち着けます。私たちはここに個室2部屋を予約しました。
ここの温泉は日本一高所（標高 2,410m）にある天然温泉としても有名です。

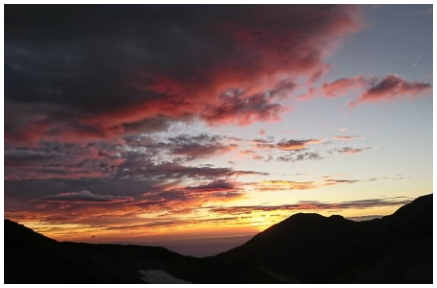
小屋到着後は温泉で汗を流し、夕食までの時間を小屋前のテラスでゆっくり過ごして明日への鋭気を養いました。

明日は先ず立山頂上に登ったあと、称名滝を目指す予定です。

小屋前のテラスで日没を待つ



夕日に染まる立山



日没　　）

夕食（小屋の HP から）

2日目

せっかくの好天なので、途中の一の越で日の出を見ようと朝4時半にヘッドランプをつけて小屋を出ました。

一の越までの道は石畳が敷かれており特に危険なところはありません。しばらく歩くと空が明るんで周囲の山の姿も見えるようになり、ランプも不要となりました。

途中に1ヶ所雪渓が残っていました。雪を削って道が作られていましたが、それでも少し滑りました。

早朝の立山

オンタデ

イワツメクサ

イワギキョウ

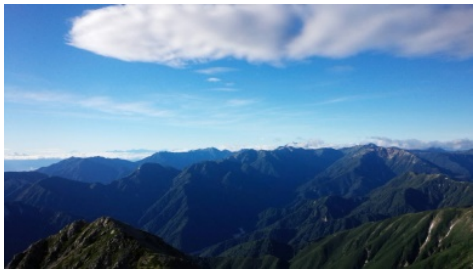
朝5時の道

一の越にて

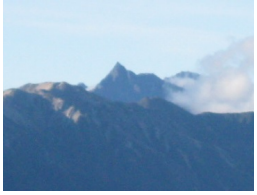
出発から1時間と少しで立山頂上への中間点となる一の越（標高 2700m）に到着しました。ここからは遠く北アルプスの槍ヶ岳まで見渡せます。
遠くの山々の名を地図で探し写真に収めながら、携行した朝食をとりました。

一の越山荘

朝日に染まる竜王山



唐松岳・五龍岳方面を望む



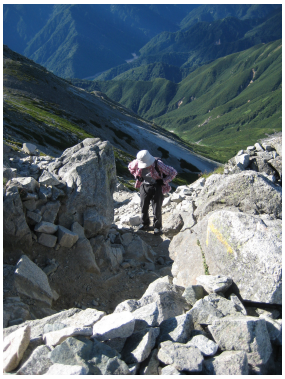
槍ヶ岳遠望

立山山頂を目指して

一の越で休憩をとったあとAM6時に出発して立山山頂を目指しました。
　ここから頂上までは「ザレたガレ場」が続きます。「ザレ」は登山用語で砂や砂利で滑り易いこと。「ガレ場」とは大小の岩が散乱した場所のことです。

ガレ場で滑れば自分がケガをしますし、石を落とせば下の人がケガをします。このため一歩ずつ足元に注意して登る必要があります。

途中で三の越の小さな石の祠（ほこら）を見つけました。昔の参拝者は頂上の五の越まで、順にお参りしながら登ってゆかれたのでしょう。それが小休止を兼ねていたのかも知れません。



頂上直下のガレ場を登る

山頂を目指す

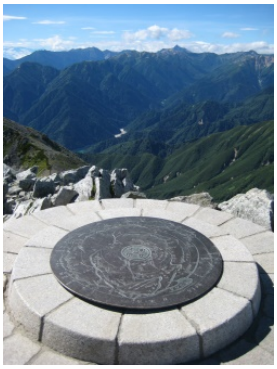
高度感たっぷりの三の越

もうすぐ頂上

雄山山頂到着

立山とは雄山（おやま）、大汝山（おおなんじやま）、富士の折立（ふじのおりたて）の3つの峰の総称であり、立山という名の峰はありません。最初の写真「みくりが池に映る立山」や「夕日に染まる立山」に写る台形の山が立山で、右端のピークが雄山、そこに見える建物が雄山神社の社務所です。

一の越からはきつい登りでしたが、全員無事に山頂までたどり着くことができました。その感謝と旅の無事を祈って雄山神社に参拝し、神主さんのお祓いを受けてお神酒をいただきました。
神社がある場所が 3,003mの頂上で、集合写真は神主さんが撮ってくれたものです。

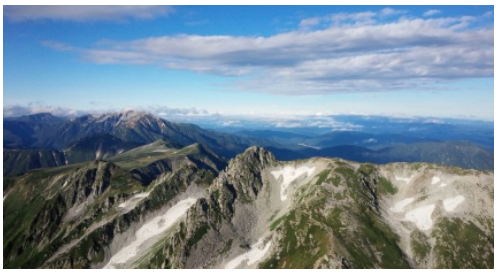

遠くの山名が分る方位盤

山頂の雄山神社にて

雄山頂上 3,003m の標識

参拝後、6名の方は隣の大汝山（標高 3,015m）まで足を伸ばしました。
大汝山からは剣岳や黒部湖など、また違った景色を見ることができます。

足下に黒部湖を望む


竜王山・五色ヶ原・薬師岳

大汝山にて（左後方が剣岳）

下山して称名滝を目指す

立山から下山して室堂センターまで戻り、復路用高原バスを途中下車。そこから高度差 600m の八郎坂を下って称名滝直下の展望台を目指す予定でした。展望台からは落差 350m の称名滝や滝壺に舞う飛沫などを間近かに見ることができます。

しかしこの下山路は道幅が狭く、湿った岩で滑りやすく、崩壊しかけた場所もあり、思った以上に多くの時間を費やしてしまいました。
帰りの電車の予定があるため残念でしたが展望台へは行かず、称名滝の写真も下山途中で撮影されたものだけとなりました。

大自然の中を歩く登山ではこのような予定外のこともしばしば起こります。
兎にも角にも全員無事に登山を終えることが出来ました。これも雄山神社に参拝したお蔭だったのかも知れません。

このあと富山駅で美味しい駅弁を買って帰りの汽車に乗り込みました。

下山路から見た称名滝

※この記録は参加者から提供いただいた写真により構成しています。
　また一部の写真は画面の都合上トリミングや明るさ調整などの編集を行っております。